

# リズムと教育(二)

厚生保母養成所長

小林宗作

## 一、リズムの本質

『はじめにリズムありき』

ハンス、ピウロウ

自然リズムは吾々の立てる大地は、内にまつかな熱と力を藏して自轉しながら群る星の中に引力と光熱等の法則に支配されながら運行して居る。海の水は絶えず水平を保たんが爲に柳揚し、大氣も亦常に均衡を得んが爲に流動する。晝あり夜あり春夏秋冬あり、且つて此の序を亂した事はない。晝は動き夜はいね、冬去春來れば羽織をぬぎ、夏去り秋至れば又衣を重ねるが如く、吾々の生活は此大自然の法則に規制されている。

肉體リズムは生れたばかりの赤ちやんの精神は未だ眠から醒めず、肉體の活動から始まる。筋肉、細胞、肺臟、其他の新陳代謝の活動は植物其他地球上の凡ゆる生物に於ける新陳代謝の諸活動に等しく、精神には直接關係なく規則的に反覆されている。だんだん成長して歩き出し、話し出す頃ともなれば、精神はやうやう眠から醒め除々に其活動を開始する。而しまだ肉體活動の規制を受けないわけには行かない。吾々

の肉體活動は、腕の振子運動に調子付けられる歩行と共に、目や耳にこそ感じないが、筋肉細胞、心臓、肺臟等の活動に相和し、美妙なるシンホニーを奏でている事である。吾々は生れ出す其先きに母親のお腹の中で、母は祖母の、祖母は又其祖母のお腹の中からそのシンホニーを感じて來たのである。かくして吾々は遠い祖先からリズム本能を受ついで來たのである。

生れて間もない赤ちやんの脊を叩きながら、坊やはよい子だと母は唄う。果して坊やは聞いているだろうか。心理學も生理學も明かにノーと答えるであらう。まだ耳もきこえず言葉も知らない。而し坊やはスヤ／＼と眠る。觸感によつてリズムを感じているのである。子守唄は母の動作をリズム付ける爲の伴奏であつた。

即ち……事の起りはリズムであつた。

吾々の精神は内に肉體の機構と外に自然の法則に規制されるから醒め、影響されながら除々に育つて行く。

生後六ヶ月頃の赤ちやんにリズムカルな音楽をきかせると、全身躍動させ乍らキヤツ／＼と喜ぶ。全身耳にしている

のである。即ち音は耳にリズムは全身に感えるものである。

精神的リズム生活する……それは感動することである。

吾々は過去のつかの間も感動の一分時でなく、恐怖した、或は祝福された一秒時でないものはない。多かれ少かれ、深いか、弱いか長いか、何等かの感動の爲に日常生活の平靜なリズムは破られている。

ストロブでヤケドしたり、机の角でコブをこしらえて泣いたり、チウインガムをかんだり、レンダの花束をこしらえたり、メダカトリに行つてドブにおつこちたり等する時、吾々の生理的機構のもたらす均衡の變化によつて自分自身を意識し生きてる事を感じる。

環境が極度に平穩で鬭争のない危険のない日を送るといふ事は情味を知らない事になる。

一グループが散歩に出た歸り道、ス、キの穂が銀の波をたゞよわせている。六歳の男兒がじつとながめていた。辨當箱入のバスケットを右手にガチャツツとふり出すと、妙な腰付きで踊り出した。やがて皆が踊り出した。自然で面白くてまじめだからうれしい。

男の子數人プールのまわりでトンボをおつかまわしている。なか／＼とれない。そのうちにもつていた棒を青空に向けて「トンボ／＼かえつて来い」と唄い乍らふりまわしている、いつのまにかリズムに乗つていた、この様に先ず自然リズムから情緒が醒されそれがおのずと肉體リズムに流れる。

搖籃の頃から自然の聲に耳を閉され、本能性を習慣性に置

きかえる様にと躰けられた子供でないならば、此等環境の豊かな自然リズムのもたらす情緒の深い印象は極めて自由に自由に身振りの表現を伴い、いつでも思出の中に残り感受性を育くむものである。

藝術家とは何か 藝術家とは情緒と身振りの特に敏感な模である。それを何等かの方法で何物かの材料に記録すれば作品となり、その記録に成功すれば即ち名人となる。名作者を著寫すれば直ちに模作者となる。

自然リズムから受けた精神リズムが肉體リズムに流れていく關係の自然な調和は、ノーマルに育つた子供でも五六歳頃までしか保たれない。小學一二年頃にはもう肉體リズムが脱落しているかに見える。だん／＼大きくなるに従つてわずかに残つてゐた精神感動も自然から離れて行く。青春時代になると精神的感動は再びよみがえつて来るが、肉體リズムの脱落は更に甚しく、あたら青春時代を……と氣の毒に思う。

ボーデー(獨)は其著『表現體操の中で』ほんとの自然運動を見たいなら動物か、學校に入學する前の子供を見るがよい。二三年の學校教育の後には大部分自然が失われる。ピアノやヴァイオリンの練習は學校が未だわずかに、残しておいた自然動作の凡てを失うと。私はつく／＼思う養成所や講習會等で指導しながら、失われた自然性と、何と人工動作の達者なことを。

私は此の觀察により特に六七歳頃から音樂リズムに依つて肉體リズムを醒し、リズムの媒介によつて自然と調和し環境

を豊にして情緒を醒し、感受性の發達を企てなくてはならないと思ふ。音楽は自ら諸動作に秩序と美の生命を賦與し、魂は喜悅の中に（運動體育）と美（藝術）の眞髓を學ぶであらう。此處で音楽リズム研究段階に來た。

音楽リズムピアノがボン／＼鳴つてゐる。必ず音の長さ強さが同時に一つになつて響いて來る。強さ或は長さが變れば音楽も變る。いろ／＼な長さと強さの組合せがいろ／＼な音楽の創作となる。パリーのジャン、デュディン氏は其著「リズムの變形法」（一九二二年）の中で「音の長さ強さの組合せの合成力である」と定義した。實に要領を得た定義である。音楽的感動は單に知的範疇に屬するものではない。

感覺中樞に動きかけて肉體組織の全部を振動せしむるものである。音楽リズムに感官が興奮すれば全身躍動となり精神もそれに刺激されて興奮し益々活動旺盛となる。

幼時に於ける此の肉體と精神との關係は極めて自然に密接されている。而して精神的發達が進むに従つて肉體諸機能の發達もそれに伴はなければならぬ。

近頃、體操とスポーツは非常な勢で復活して來た。併し體育がスポーツ的であるならば肉體の健康は得られるであらうが、藝術的感動と共に全身躍動する様な、情緒と密接な關係を創造する事は出來ない。世はあたかも肉體を忘れたかの如く精神的發達のみを專念する（健康體育は盛だが）處からダルクローツをして『心的機能と肉體諸機能の調和せる人はめつたにいない』と叫ばしむるに至つたものである。

自然と肉體と精神の調和は何よりも先きに肉體諸機能が整調されていなければ精神的躍動は肉體の門に於いて先ず閉される。一方では感官の興奮に應じてすなおに振動する筋肉と、他方では自然リズムと音楽リズムに敏感な精神と、兩極を連絡する神経の鋭敏さを、整えなければならぬ。

此處に來てダルクローツのリトミックと組織は果然特色を發揮する、其教育的組織と技術の卓越せること、不思議な能力を以つて次から次へと方法が工夫される。

リズム學は古い昔から多くの學者が研究してゐるが未だ完成されてゐない。今の所、『天體の運行、地球上の諸現象、人間の生活等を支配する力である』（自然リズム、肉體リズム、精神リズム等既述が認められてゐるが、なほ未來の問題である。一般的研究は他にゆすりこゝでは教育に關係するものだけに止めておく。

リズムと教育との關係を一例の法として體系付けたものに、ダルクローツ（スイス）のリトミックがある。

音楽リズムの特殊な研究にデュディン（佛）の「リズムの變形法」と「幾何學リズムダンス」がある、色彩リズムの研究には、色のオーケストレーションといふ非常に貴重なものがある。肉體技術の運動リズムに最も勝れたものにポーデー（獨）の「表現體操」がある。

研究に當つてダルクローツは音楽リズムから、デュディンはギリシヤの詩型論から出發してゐる。私は自然運動から出發すべきだと考へて綜合リズム教育を創案した。

此等は皆教育の爲に特に研究されたものである、後で教育の方法論で詳述する豫定である。

リズムは古代ギリシヤで流れるという意味であつた。で凡ゆる運動の底を流れる息吹である。リズムは、ダイナミックスと同様全く運動に基く。運動せる肉體を考えないで、リズムを考える事は出来ない。運動の始め出發點と終りとが空間と間時の量を決定する。その空間と時間共に動力に依る、故に運動とは時間と動力と空間の合成作用である。と定義することが出来る。その相互關係は、

時間 + 動力 = 空間

空間 + 時間 = 動力 } リズムの定義

動力 + 空間 = 時間

これは自然の法則である。

これを電車の運轉に例えて見れば

空間 + ワット (電力) で  $x$  メートル走れるか。

$x$  メートル  $x$  分間走るには  $x$  電力  $x$  ワット要るか。

$x$  ワットで  $x$  メートル走るには  $x$  分間要るか。

電車は驛と驛の間何メートル (空間) の間を (時間表に依つて運轉されるから運轉手は電力のかけ方だけを考えれば良し事になる。即ち、(空間 + 時間 = 電力) となる。

電力をかけ過ぎると電車は早着、ブレーキをかけると心捧 (命) をけする。電力が足りないと延着する。丁度よく電力をかけることの出来るのをリズム的というのである。此の物理的法則は人體の運動に於いても全く同じである。

音の發生肉體の動作なしにはピアノは鳴らない。腕が高い所から落されると音が強い、動作が緩かなれば音が軟い、キーの上に腕が長く置かれると音が長い、強い音を出さうとする時は速力を加える、等、動作の時と力と大きさの組合せの現れが音楽となる。肉體のリズム運動を正しく行うためには時間と空間と、筋肉中に流れる力との關係を正しく統御する精神と、心の命令にすなおな筋肉と、身心兩極を連絡する神經の鋭敏さとを必要とする。

(イ)、時間と空間内に於ける筋肉の屈伸と彈力との關係の研究はリズム意識を發達させる。

(ロ)、空間内に於ける運動の線の分割は造型リズム意識を發達させる。

而して (イ) は時間藝術 (音楽や體育) に (ロ) は建築美術工藝等の諸藝術の發達に役立つリズムの媒介リズムは不思議な力で吾々の生命はやがて宇宙を支配して來た。さればリズムの理解はやがて自然と人生の調和を齎す。

リズムを通して太陽をのぞけば誰の目にも七彩の錦は寫るもの、強ち天才を要せず致養の如何にかゝわらない。

時と力と空間のリズムを與えよ。環境の種々相が悉く底の底まで分析されて、やがてそこから新しいリズムが創造される。

リズムに依つて虹の神秘は明かされ。三角に依つて又他の神秘が明かされよう。かくして吾々の内なるシンホニーと外なる宇宙のシンホニーと相和しグラウンドシンホニーを奏することが出来よう。即ち、自然と人との調和がもたらされる。